

三水会会報

北里大学水産学部
同窓会会報
第 45 号

平成15年3月10日発行

編集者 内藤 文隆
発行 三水会(北里大学
水産学部同窓会)
事務局 〒246-0031神奈川県横浜
市瀬谷区瀬谷5-22-1
TEL フリーダイヤル
0120-873135
振替口座 みずほ銀行
大手町支店
008-1182388

「水産学部創立30周年」須玉学部長 P.2

「就職ガイダンス」に参加して P.3~P.4

OB会報告 P.5

「漁火祭」「クラブ助成受賞」 P.6

「三水会 特別助成受賞」 P.7

「見たい・知りたい・話したい」 P.8

正面より会場マリンホールへ



式典会場、大講義室



来賓の先生方



平成十四年十月五日 水産学部 創立三十周年記念式典

佐藤理事長、学長式辞



祝賀会場、公民館



井田教授「学部30年の歩み」



学部創立三十周年記念



『学部長に就任して』

児玉 正昭 学部長

この度、神谷前学部長の後任として、七月一日付で水産学部長に就任いたしました。皆様のご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。水産学部は平成十四年、学部開設三十周年を迎え、十月五日、マリナーホールの大講義室においてささやかではありましたが厳粛な雰囲気の中に、多くの来賓の方々をお迎えして記念式典を開くことが出来ました。三水会からも長谷川会長ほか数名の方にご参列いただき、職員一同心から感謝しております。退職された先生では松浦先生、小林先生、そして三陸町にお住まいの野村先生が元氣な顔を見せて下さり会を盛り上げて下さいました。

三十年という年月は歴史の中ではほんの一瞬に過ぎませんが、初期の卒業生のお子様方のなかには既に大学を卒業した方もおられると聞いており、人生の大半が過ぎ去ってゆく時間であることを実感しております。時間の経過と共に人の住んでいる環境も変化します。三陸町周辺地域にも時代の波が押し寄せ、開学当時の面影は徐々に失われつつあります。

三陸町は大船渡市の一部になりました。これに伴って大学への道も市道となり、道幅が広がった立派な道路が完成しました。この二月には、二四時間営業のコンビニエンスストアが町内に開店するという話もあり、都会化の波がここにも押し寄せてきていることを感じます。大船渡市内の様相も大きく変化し、学部開設当时にあった店や建物の多くが消え去り、大型店舗が目立つようになっていきます。しかし、かわってゆく町並みの中で、変わらないことが誇りであるかのように昔のたたずまいを残して営業している店も少なくありません。大学の周辺ではこの傾向が強くなり、崎浜のメインストリートを歩いてみると漁港からガソリンスタンド、学生に人気があるホモジマンならぬ島商店を通り過ぎ、だから坂を登ってゆくと左側に橋本自工と、昔と変わらない町並みとそのままの姿で残っています。さらに歩を進めると大学の構内に入ると、ここも開学当時

の面影を多く残しており、長い年月に耐え壁の色がくすんできた開学当初から校舎が、平成四年に完成したマリナーホールと見事な対比で調和しています。しかし構内の手入れが行き届いているため全体的にこざっぱりした印象を与える構内の様子は、昔の野生的な感じがなくなると数年前に遊びに来た初期の卒業生には不評でした。

さて、水産学部の活動内容について考えてみますと、本学部は開学以来、教員数三十名という小さな学部であるにもかかわらず、国の内外から注目を集める多くの優れた研究を育ててきました。これまでに十名を超える教員が関連学会から学会賞を授与されるという快挙を成し遂げています。そしてこれらの研究の多くが大学院生による研究ばかりではなく、学部学生の卒論研究の成果であることは私たちの誇りであり、他大では見られない本学部の特徴であると思います。設立当初に活躍した教員の大半は新しいメンバーと入れ替わりましたが、研究に対する強い熱意は本学部の伝統として根づいています。

高等教育の大衆化が顕著になりつつある現在、社会が大学に求めるものが大きく変化していることは、最近のマスコミ報道を見るまでもなく明らかです。本学部も学部教育の質を問う第三者評価であるJABEE

の試行審査を水産系私立大学の先陣をきって受審し、教育の改善にいち早く取り組んでいます。古いものが淘汰され新しいものに置き換わってゆくのは世の習いですが、歴史的な古都の例を見るまでもなく、大船渡や三陸町に残された昔のままの景観が新しい時代に溶け合って活々と存在するように、多くの卒業生と共に作り上げた水産学部の良き伝統は、どのような時代の流れにも対応しながら生き残ってゆくよう努力しております。そうできるよう努力してゆくとともに、私たちが卒業生の方たちから水産学部に対する応援が、私たちに何ものにも代えがたい励みになっていないことを忘れないで下さい。



(児玉学部長、経過報告)

『就職ガイダンスに参加して』

— 職場紹介 —

水産増殖学科卒

九期生

加藤 寿朗



私は昭和五五年四月北里大学に入学し、昭和五八年3月に卒業を致しました。研究室は環境生態で井田先生の下で勉強いたしました。

今、カネサン水産という会社に在籍しております。

私共のカネサン水産という会社は築地を基盤とした水産仲卸でありますが、流動する世の中の流通状況に対応し水産食品を中心とする専門商社的な方向に転換してきています。

業務としましてはもちろん築地市場での仲卸業務もさることながらマグロを中心とした水産加工品を製造し、営業展開して量販店に卸すのが仕事です。

これからの業務に伴い、我々は衛生管理された加工場での技術力、世

界を視野に置いた営業展開力、適働で安全な食品を作るため世界中の海を網羅した仕入れ交渉能力が必要になります。非常にシビアで厳しい仕事ではありますが、社員個々のスキルアップを常に目指し若い戦力にもチャンスを与えながら会社一丸となって頑張っています。営業力も必要です。語学力も必要です。加工技術も必要です。選別の目利きも必要です。全ての力が一緒になってこそ会社の目標は達成可能になります。

会社の社訓があります。

『私達はお客様に食品の質と安全を提供します。』

これは当たり前なようでいて実はほんとうに大変な事です。でも最近の食品加工会社の不祥事からも分かりますように絶対必要な事です。この基本的な事を社訓にしている会社という事をお分かりください。

現在我が社には北里大学卒が二十人ほど居り、皆最前線にて活躍しています。特に、社長が北里卒一期生であり幹部管理者にも四人います。ここで注意点ですが我が社は学閥主義ではありません。当然の如く実力主義です。ただ北里卒が弊社への適応性が高い場合が多く、努力を積み重ねることでそれぞれステップが上がっているのです。もしかしたら三陸町での三年間の水産まみれの在学環境に、後ほど説明します弊社の業務に水が合うのかも知れません。

会社の業務の詳細を説明します。まず、営業部門。

現状三部署に分かれており各部門が取引様の業態によって担当もつています。量販店特にスーパーの対応は決め細やかな対応が大切です。資金力のある商社関連が競合となる場合も多く自分たちのセールスポイントとして必要な事です。又お客様が必要とする商品展開をエンドユーザーの立場に立って提案。ただ安く利益が出るという提案だけでは消費者の皆さんにすぐ飽きられてしまいます。魅力的な商品価値のある安全でおいしいものをどういったアピールで販売するか。取引先の仕入れ担当の方と一緒に考えてながら提案しています。

中でも海外事業部は海外での仕入れ、営業展開が主点になります。世界中の食材を世界中の取引先と交渉できるためには英語、中国語、スペイン語といった語学力は必須です。

次に製造部門。

製造加工はマグロ中心です。

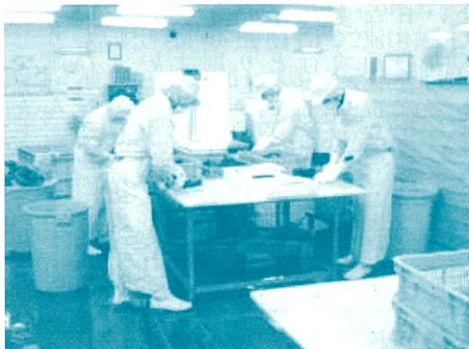
我が社は製造加工部門においてISO9001-2000を取得しており厳重に管理された中での商品扱いをしています。衛生的で安全な管理の元で行われています。

我々は多くにマグロ仕入れをマグロの原魚、ラウンド(背ひれとエラわたを抜いた状態)にて冷凍及び生で仕入れれます。

そこからお客様の要望や弊社の製品形態に応じて加工します。この一次的な加工で冷凍にて流通する商品も有りますが、多くがチルド製品として二次加工します。

チルド加工品といえばマグロは色や鮮度によって商品価値が変わる食材ですから、これにも我が社独特の技術とノウハウがあり社員は習得が必要で

チルド製品は温度管理が大切なポイントです。自社の工場内だけでなくお客様の元に着くまでの状態も考慮に入れての梱包管理も大切です。航空貨物の物流が一般的になり、世界的に広がるに従い世界各国から成田空港に水産物が輸入されます。



(マグロ製造加工)

そういった流れの中でマグロも生で流通する事がここ数年でかなり増えてきました。消費者の皆様の食卓にアジア地域のみならず、ヨーロッパや北中南米、オセアニア地域等からの生マグロが並んでいる事も多くなっています。我々はこういったスピードとタイムリングが大変重要な生のマグロも扱っています。成田から通関したものを即加工という事もよくあることです。

生のマグロは包丁で卸します。専用の大きい包丁(150cm)を使うわけですからもちろん技術の習得が必要でです。

鮮魚は鮮度が命です。選別を正確に行い、無駄とロスを無くした技術で速やかに作業を行う事が大切です。冷凍やチルドともまた違った特別なノウハウです。

寿司種用の食材も扱っています。寿司、特に握りずしはここ数年スーパーやコンビニで扱われる様になることで一般的な食品としておおきなシェアを占めてきています。この商品は自社での製造を全ては行いませんがお客様のご要望に沿った物を仕入れお渡ししています。消費者の皆様の食卓の日常的に上がるこういった食材を惣菜商品も含めて全般的に扱う事は我が社にとっても大変意義のあることと思います。

輸入物のサーモンも取り扱います。現状は刺身用の生サーモン中心ですがマグロの製造加工で培った我々の

技術を元に商品展開を進めています。築地での仕入れ(せり)も大切な仕事です。近年よT.V等で見られる事が多くなりましたが目利きと相場感を考慮に入れた上での駆け引きとなるせり場仕入れはまさにプロフェッショナルです。

歴史の古い築地市場ですから経験の豊富な年配の方の目利きが重要視されがちですが、我が社は若い人でもどんどん経験・参加・教育のチャンスを与え、皆が習得する事により会社全体の業務スキルを上げる一因となっております。

営業・製造部門以外にも事務センター・経理部・総務部などの部署は他部署をサポートしたり経営面を管理する上で重要な部門です。専門的なスキルも必要ですが会社の営業展開、経営方向を正確に視野に入れないが最適なシステムを導入したり正確な数字を管理する事が主な仕事です。

この文章を見られる在学中の学生の方も多くいることと思います。私自身も十月に三水会主催の就職ガイダンスのために三陸にいつてきました。就職活動を来年に控える三年生の方に多数出席いただきました。来る道すがら三水会や大学の学生課の方からうちの学生は皆のんびりしていて・・・と言う話を良く聞きました。確かに皆どこかのどこかでのんびりしてあつたらかんとしていると思

います。でもそれって昔から同じです。少なくとも二十年前の私の在学時も同じでしたし、一期卒業生である我が社の社長から聞く話も同じです。

正直ほつとしました。

でも今の皆さんには違った事がありません。それは我々の時と違って今の世の中大勢の卒業生、先輩がいる事です。これはチャンスではないですか。これを皆さん逃がす手は有りません。卒業して社会にでるに当たって積極的にいるんなつて色々な人から知りたい事を聞きましよう。少なくとも私は三陸で皆さんと顔を合わせて話をしました。これひとつの「つて」です。同じ北国三陸の地で運命共同体みたいな生活を体験した人たちは後輩を赤の他人の様には思えません。何か協力してあげたいと思つています。



(ガイダンスの様子)

(就職指導講演講師3名)



宮澤 康人氏
株式会社水産環境研究所
加藤 寿朗氏
カネサン水産㈱
西村 英治氏
株式会社英食品

最後にもう一度後輩の皆さんへ。総じて私たちの会社の仕事は楽では有りません。世の中どこに行つても、どんな会社や組織でも多分皆同じ事でしょう。我々は現場に入れば世間からいわれる3Kと言われる仕事で、人によっては朝が早かったり休みが不規則だったり、手や服が生臭くなつたりと、営業であれば電話の指示ひとつで日本各地に出かけたり海外に行つて商談したりととにかく大変です。でもそういった我々のような流通に携わるしごとにはよつて『日本の食文化と経済』は支えられていきます。つらい事やきつい事を敬遠せず自ら飛び込む勇氣も必要です。若い時期に苦勞して覚えた事は後々に必ず血となり肉に成ります。その証拠にうちの会社にいる先輩達に聞いてみてください。

日本の未来を背負うべきあなた達に私たちも期待しています。

『魚類生理O B会』

増殖十四期 山口 祐司



写真のイトウは道東のとある大き
な汽水湖に注ぐ河川で釣られたフイ
イッす。推定年齢8歳5キロの雌です。
(釣人 山口 裕司)

● 昨年の十一月三十日に赤坂やげん亭にて、魚類生理学研究室のO B会が開かれました。かくしてみなさん諸先輩方々、年代をそれぞれ重ねているにもかかわらず、私もそうです。学生時代に戻ったような、一時を過ごし皆さん大満足の様子でした。山森先生をはじめ三陸から講師の先生も参加してくださり、山森先生はまずまず貫禄がでて、本当に水産関係の最先端を担う教授という感じでした。山森先生以下魚類生理学研究室の近況を聞いたところ、大船渡湾にて孵化したフグの稚魚に注目しなんと体長10mm程度でもフグ毒を持つていることが解り、近々毒の起源も解明! ?となるかも期待に胸膨ら

(O B会参加の方々)



(Old boys)



ましているとのこと。三陸キャンパスの写真を見せて頂いたのですが私が卒業した十五年前とあまり変わっておらず懐かしく思え、また行きたくなりました。O B会出席のメンバーの先輩のなかには、毎年鮭の母川回帰のごとく行かれてると言うツワモノもいる次第。中には自分の子供に三陸キャンパスはいよいよとサブリミナル効果を期待する方々。こんな、縁が濃い大学も少ないですね。これも三陸の自然と山森教授の仁徳の成せる技。皆さんも是非機会があればO B会に参加してはどうですか!

『千葉の会のご紹介』

食品学科 十四期 西尾 徹

去る平成十四年十一月三十日、毎年恒例となっている「千葉の会」が開催されました。

この会は水産学部四期生の有志の方が始められた「同窓会」兼「忘年会」として、毎年十一月の最後の土曜日に開催されている会で、創始者の方がたまたま千葉県在住であり、ずっと千葉県内で開催していたため「千葉の会」となっているだけです。参加者数は毎年十名前後、こじんまりしていますが、その分和気あいあいと、毎回三陸時代の思い出話・暴露話等々に花を咲かせ、大変楽しい会となっています。

今回の開催場所は昨年引き続き千葉県富浦町の「福喜庵」。温泉もなく眺望も別にどういふことはないのですが、「海鮮料理が美味かつ大量!」という理由で二年連続の開催となりました。

料理は、「生ガキ」「アン肝」「ポイルズワイガニ」「煮アワビ」「煮魚」「野菜煮物」そして「刺身船盛り(キンメ、肝付きアワビ含む五種)」「アンコウ鍋」等々と、文章で書くことそんなに感じませんが、実際はそれぞれの料理が普通の一人前



千葉の会
連絡先 045(301)0052

の一・五倍〜二倍程度の量で、最初は至福の一時なのですが、最後は「ペーパー時代の寿司コン」を思い出させる状況となります。ちなみに前回は全部食べきれずメイン(?)の「アンコウ鍋」が翌朝の朝食となっていました。夕食を完食すること! が掲げられておりましたが、やや二日酔い気味の状態では朝からアンコウ鍋というのはある意味「拷問」であったの言うまでもありません。

今回は、本年十一月二十九日(土)に同じ場所ですら三回目の挑戦を開催予定となっております。千葉県在住に限らず「我こそは!」という大食漢の方は是非ご参加下さい。

『第三十回漁火祭報告』

水産学部三年 會田 武史

十月十九日(土) 二十日(日)の二日間にわたり第三十回漁火祭が開催されました。

今年に残念ながら天候に恵まれず、二日間とも厳しい寒さの中の開催となり、二日間は途中から雨が降るというアクシデントに襲われました。そのためか、来場者数は伸び悩み、前年度の来場者数を下回ってしまいました。

しかし、様々な企画や模擬店の熱気が寒さを吹き飛ばし、去年以上の盛り上がりを見せたと思っております。

今回の企画内容は、生物部からは水産学部独特といえる「水族館」、軽音部からは心からの感動を響かせた「軽音ライブ」、体育会からは熱い魂のパフォーマンスである「嵐風志」などがありました。また、実行委員からはあなたを新しい世界へと誘う「納豆の世界」、参加者共同作業で全長?メートルに挑んで巻いた「巨大海苔巻」な

どがあり、様々な方々に楽しんで頂けました。

今年の漁火祭を無事成功に終えることが出来たのも三水会をはじめとする関係者の皆様の御支援、御協力のおかげであり、漁火祭に関わって頂いた全ての方々のおかげであります、漁火祭実行委員を代表し心より厚く御礼申し上げます。
本当にありがとうございます。



(実行委員のメンバー)



(寒い中 賑わった模擬店)

『三水会クラブ助成金をいただいて』

「演劇部」

水産生物学科二年 藍澤 輝明

私たち演劇部は、平成十四年度の前半は、三年生が三名、二年生が四名の計七名でクラブ活動を行ってきました。十一月の交代後は、二年生が中心となって二回の公演を行いました。困難な事がたくさんありました。

一回目の公演は、吉浜小学校での公演でした。漁火祭の公演からわずか三週間しかない限られた中、新たな台本決定から取り組みを開始しました。インターネットや図

書館の書物等を題材に小学校という特殊性を考慮しながら台本を作る作業は、大変なものでした。考慮に入れたことは、小学校公演なので小学生向けであること、裏方も必要なので役者の数が、たった五名であること、小学校の授業一コマ六十分を使うので、所要時間が五十分であること等です。

実際の吉浜小学校公演において苦労したことは、スポットライト・投光機の光を当てる位置と役者の兼ね合いでした。つまり、光を当てるのは、役者の表情・体の動き・感情の起伏を表すためなので、光を当てる位置は二年生のみで考えるにはあまりにも難し過ぎ



(部室にて練習風景)

て、経験豊富な三年生の助けを借りました。

吉浜小学校公演の三週間後に行った次のクリスマス公演では、二年生になりの形ができたような気がしました。しかし、観客の意見を聞くと、まだまだ、不完全な面が、たくさんありました。

次に、この様に私達は、漁火祭をはじめ、学外での活動もしています。このような活動にもつきまとう問題があります。それは、電気ドラム・ガレージ（スポットライト）・投光機・調光盤です。これからの不足分を小学校や公民館から借りることで補いましたが、使用中だったり、故障中だったりするため計画通りいかない場合が多々ありました。このような状態なので今回の三水会による資金を本当に有り難く思います。本当に助かります。資金の使い道は、道具を少しでも多く備えるのに使おうと考えています。今後も我々は多くの困難にぶつかると思いますが、三水会のように応援して下さる方々がいらっしやることを念頭において、日々精進して参ります。



(部室にて練習風景)

『三水会特別助成金をいただき』

「E C O K U S」

(ボランティア)

水産生物学科三年 熊谷 敬充

この度は、三水会より助成金を頂きまして誠にありがとうございます。私たちは北里会に属していないボランティア団体「E C O K U S」として活動していますが、三水会より、「直接話しを聞きたい」と言ってお下さった時も、驚きと同時に嬉しさもありました。直接お話をし、今の現状をご理解を頂き、助成金を下さったことは、本当に「感謝」の一言につきま

今までの活動が先日、気仙地域生徒指導推進協議会が発行している会報「ゆうなぎ」に掲載されました。ここまで、評価されたのも三陸町上浦嶺の方々のおかげな取り組みと、団体として成立していなかった時の先輩方の努力があったからだと思っています。



(浦嶺にてボランティア活動)



(イネカリ)

助成金として頂いたお金は、イワナのタグ代や、子供達の工作の材料費などに当てようかと思っています。

私達は、特別な事をやっているわけではありません。周囲にどんな良い評価をされようと、やはり主役は、上浦嶺の方々であり子供たちであります。自分達も、様々な活動と一緒に進んでいます。地域の方や子供達にとってよきパートナーとなるように、自分達なりのスタイルを確立できるように今後も頑張っていきたいと思っています。

本当にありがとうございました。



見たい・知りたい・話したい

◆事務局からのお知らせ◆

■平成15年度三水会定期総会

下記により平成15年度総会を開催いたします。役員、代議員はもとより一般会員の方も傍聴できます。

《開催日》平成15年5月18日(日)11時～12時

《開催場所》北里大学薬学部3号館802会議室(白金校舎内)

《協議事項》平成14年度事業報告・収支決算、平成15年度事業計画・収支予算案、その他

【三水会代議員の改選について】 一代議員推薦のお願いー

早いもので前回の改選から3年近くが経ち、15年度総会において、代議員・役員改選が行われます。つきましては、代議員の推薦(自薦・他薦)を下記により受付を致します。氏名・卒業年・学科・卒論講座名・住所・連絡電話番号、他薦の場合は推薦者名をご記入の上、事務局宛にお送りください。FAXでもかまいません。

代議員資格:三水会正会員 推薦受付期間:平成15年3月末

三水会事務局:〒246-0031

横浜市瀬谷区瀬谷5-22-1 石井 方

TEL・FAX0120-873135

◆北里柴三郎博士生誕150年記念特別展◆のお知らせ

1853年1月29日、現、熊本県小国町に北里柴三郎博士が誕生して本年で150年。これを記念するシンポジウムや記念式典が開催されました。又、白金校舎、本館ホールの北里柴三郎記念室では6月12日まで「写真で見る150年」と題したパネルが展示されます。(無料)

この機会に博士の足跡や数々の業績にふれてみてはいかがでしょうか。

お問い合わせ TEL.03 (3444) 6161

若干研究者研究奨励集金の募集

第15回 北里大学同窓会若手研究者研究奨励金の募集についてのお知らせ

- 1、応募資格者:北里大学卒業後15年未満の研究者(個人)
- 2、奨励基額:30万円
- 3、応募締切:平成15年12月末日
- 4、応募方法:応募要領と用紙は同窓会事務局にありますのでご請求下さい。
TEL.03-3446-7309(直通)

■訃報のお知らせ

安藤 俊介さん(2期生)、和賀 玄さん(14期生)が逝去されました。
慎んでご冥福を、お祈り申し上げます。

編集後期

我等が母校、水産学部も創立30周年を迎え、教育に対する熱意は開校以来冷めることなく、受け継がれております。しかしながら、今、大学を取り巻く状況は、18才人口の減少、就職難と厳しい問題も多くあります。北里のスクールモットー「叡智と実践」、これは辞書によりますと“深刻な道理を知りうるすぐれた知恵を持って自ら実行する”という意味であります。大学も昨年は「JABEE」受審の取り組み、今年はセンター試験の導入など様々な対応と試みに挑んでいるそうです。

私達にもこの現代社会の様々な場面においてこの言葉が求められている気がいたします。

挑戦を忘れずに、頑張れ、三水会諸氏。 K. H